



2020 年冬季ボーナスアンケート調査（宮崎県内）

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートによる冬季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 冬季ボーナスは、全体の 77.4% が「支給される」と回答したが、増減見込みは「減りそう（47.0%）」が大幅に上昇した。
2. ボーナスの見込み額は、「10 万円以上 30 万円未満（25.6%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（69.4%）」が最多で、貯蓄の目的は「老後の生活（54.0%）」貯蓄の方法は「流動性預貯金（64.4%）」がそれぞれ最も多い。
4. ローン返済は、「住宅関連（77.3%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は、「衣料品（55.7%）」に次いで「日用品のまとめ買い（32.9%）」が多く、買物予定先は「通販・ネット販売（61.0%）」が最多だった。県外買物予定地は、九州 5 市（注 1）の中で「鹿児島市（47.1%）」が最も多い。
6. 品目別物価状況 D I（注 2）は「食品（生鮮食品を除く）（+ 38.2）」が最も高い。
7. 今後の旅行・レジャーの予定先は、「九州内（65.8%）」が最も多い。
8. 新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）の買物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（82.3%）」、買物や飲食支援の利用では、「応援消費プレミアム付き商品券（48.8%）」が最も多かった。
9. 生活状況は「変わらない（59.8%）」が最も多いものの、D I（注 3）は「▲ 27.4」と前年比 13.9 ポイント（以下「P」）悪化した。

注 1）福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の 5 市

注 2）物価が前年より「高い割合」－「安い割合」

注 3）生活が前年より「良くなった割合」－「悪くなった割合」

調査の実施要領

調査時期：2020 年 11 月 18 日（水）～ 11 月 24 日（火）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（宮日ネットリサーチ）

回答者数：500 名

回答者の属性（単位：人、％）

年代別	人数	構成比	世帯別		人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比
20歳代以下	33	6.6	独身		112	22.4	男性	318	63.6	会社員	436	87.2
30歳代	90	18.0	既婚	子供有り	281	56.2	女性	182	36.4	公務員	64	12.8
40歳代	190	38.0		子供無し	107	21.4	合計	500	100.0	合計	500	100.0
50歳代以上	187	37.4	合計		500	100.0						
合計	500	100.0										

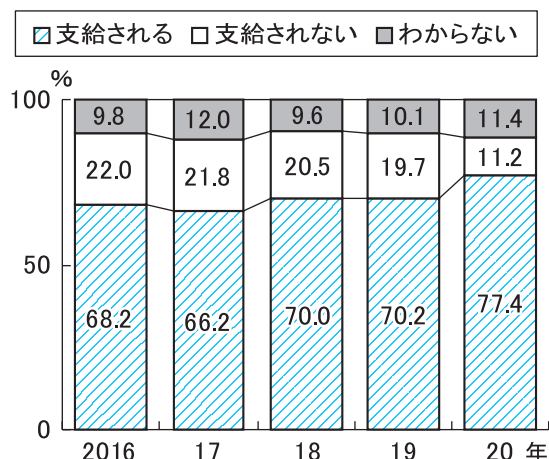
※今回の調査では、属性の集計値に偏りがあり、調査結果にも反映されているため、前年との比較は参考とする

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が77.4%

今冬のボーナスは、「支給される」が77.4%（前年比+7.2 P）、「支給されない」は11.2%（同▲8.5 P）となった（図1）。

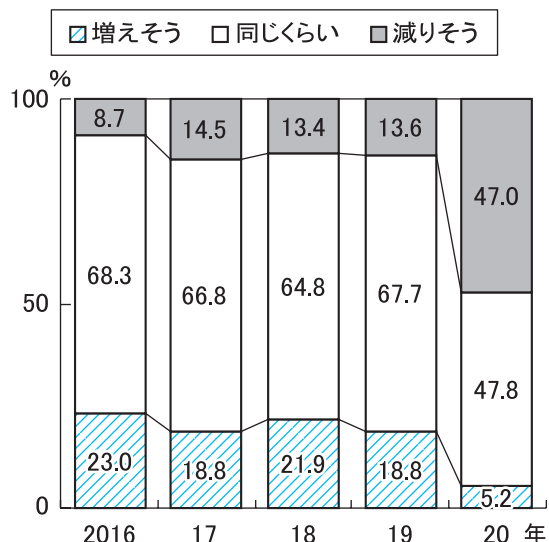
図1. 冬季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「減りそう」が上昇

ボーナスの増減見込みは、「減りそう（47.0%）」が前年比33.4 P上昇し、「同じくらい（47.8%）」は前年より低下した（図2）。新型コロナによる業況の悪化が、ボーナスの受給状況にも現れている。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満（25.6%）」が最も多かった（図3）。

会社員は、「10万円～30万円未満（28.9%）」が最も多いものの、前年比17.6 P低下した（表1）。支給額「50万円以上」が前年より上昇しているが、回答者の属性（40歳代以上の回答者数が増加）によるものと思われる。

図3. ボーナスの見込み額

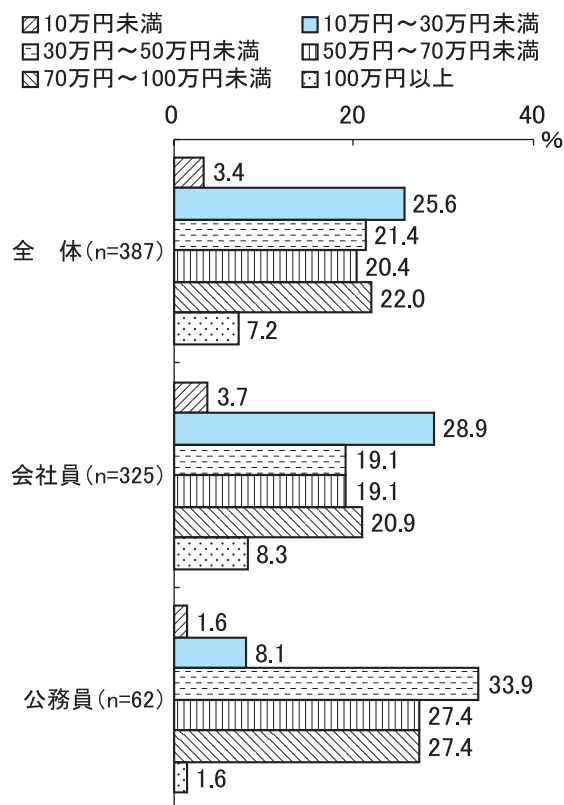


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2020年	3.7	28.9	19.1	19.1	20.9	8.3
2019年	13.2	46.5	22.6	9.1	5.7	2.8
前年比	▲9.5	▲17.6	▲3.5	10.0	15.2	5.5

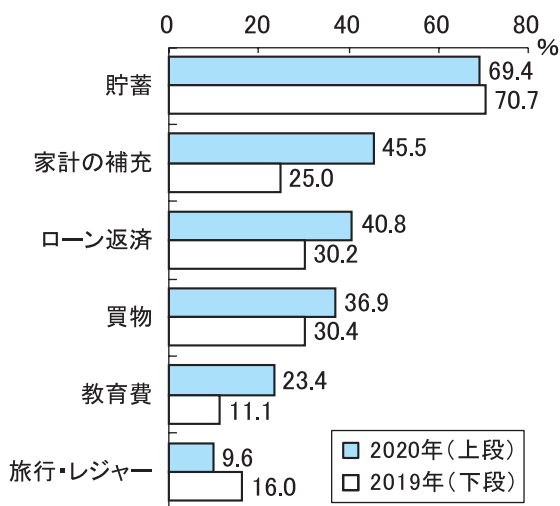
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは、「貯蓄(69.4%)」が最も多く、「家計の補充(45.5%)」「ローン返済(40.8%)」「買物(36.9%)」と続いた(図4)。

前年より「家計の補充」「教育費」「ローン返済」「買物」が上昇し、「旅行・レジャー」は低下した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



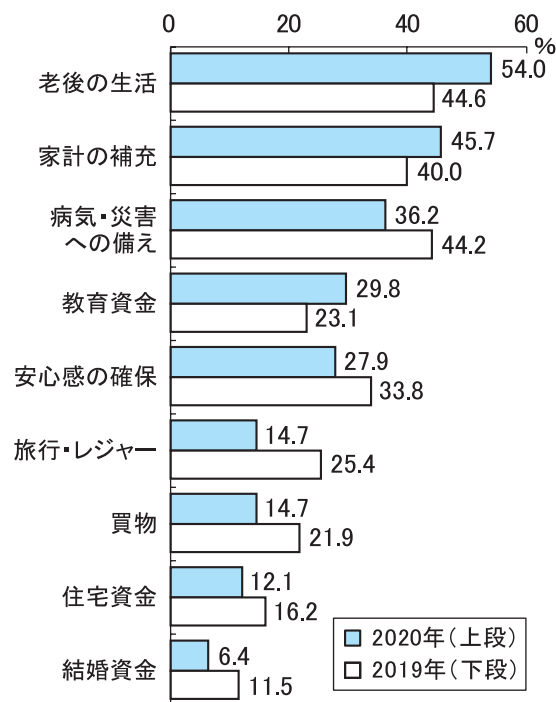
4. 貯蓄

(1) 貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は、「老後の生活(54.0%)」「家計の補充(45.7%)」「病気・災害への備え(36.2%)」と続いた(図5)。前年比では、「家計の補充」が5.7P上昇した一方、「病気・災害への備え」は8.0P低下し、順位が入れ替わった。「旅行・レジャー」は前年より10.7P低下し、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い旅行を抑える様子がみられる。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

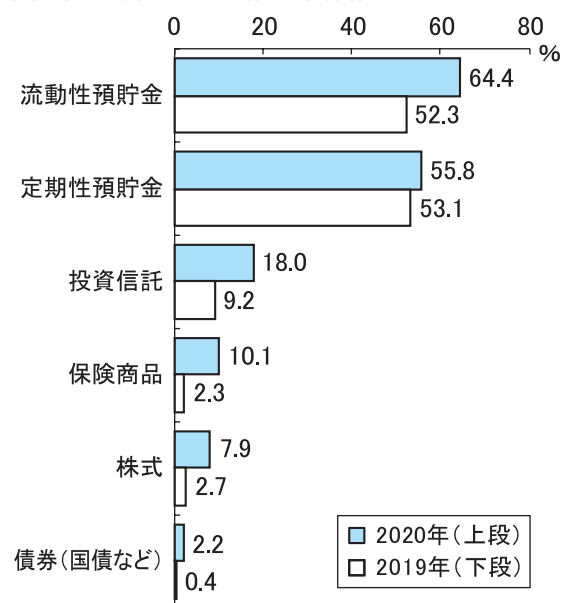


(2) 貯蓄の方法(複数回答)

「流動性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「流動性預貯金(64.4%)」「定期性預貯金(55.8%)」の回答が多かった(図6)。全ての貯蓄方法で、それぞれ前年を上回り、「流動性預貯金」「投資信託」「保険商品」の上昇が目立った。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



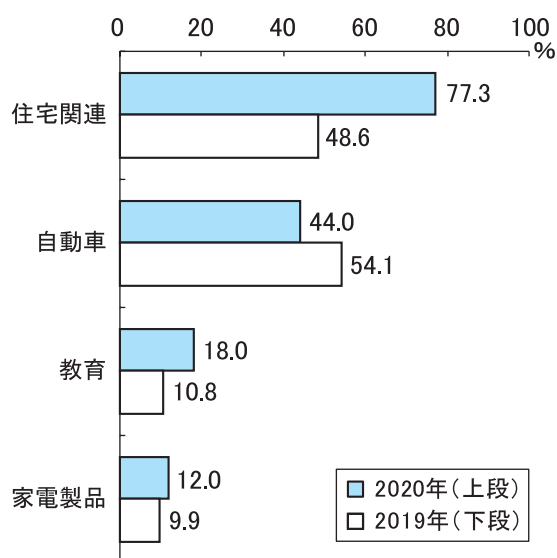
5. 「ローン返済」(複数回答)

「住宅関連」「自動車」が二大項目

ローン返済は、「住宅関連(77.3%)」「自動車(44.0%)」の回答が上位を占めた(図7)。

前年と比べて「住宅関連(+28.7P)」が上昇し、「自動車(▲10.1P)」は低下して、順位が入れ替わった。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



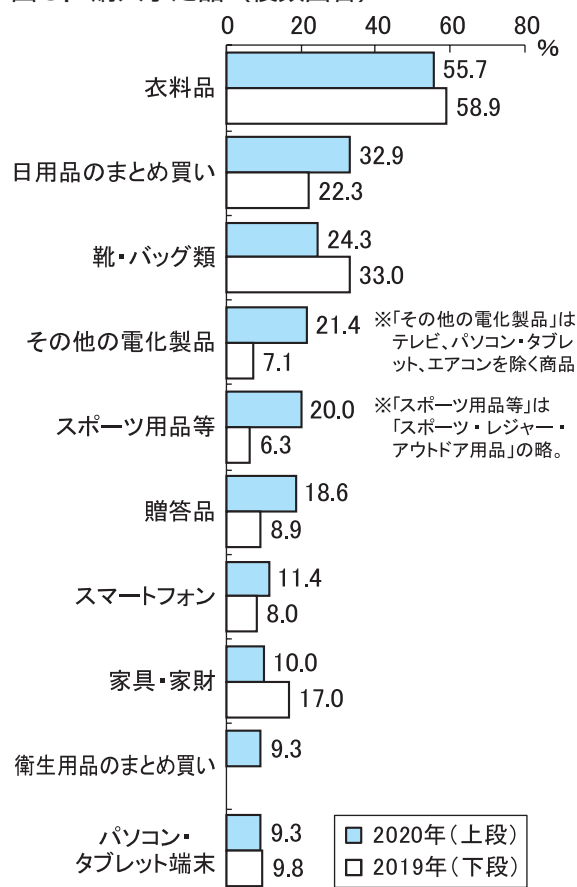
6. 「買物」

(1) 購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は、「衣料品(55.7%)」が最も多く、「日用品のまとめ買い(32.9%)」「靴・バッグ類(24.3%)」と続いた(図8)。前年比では「その他の電化製品(+14.3P)」「スポーツ用品等(+13.7P)」「日用品のまとめ買い(+10.6P)」「贈答品(+9.7P)」等が上昇した。本調査より新たに選択肢に加えた「衛生用品のまとめ買い」は9.3%となった。

図8. 購入予定品(複数回答)



(2) 買物予定先の店舗形態(複数回答)

「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先を店舗の形態別でみると、全体では「通販・ネット販売(61.0%)」が最も多く、「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(57.4%)」「ディスカウントストア(31.9%)」と続いた(次頁表2)。

居住地別でも、全ての地域で「通販・ネット販売」が最も多く、それぞれ前年を上回るなど、新型コロナによる買物の形態について、通販等を選択肢とする様子がみられた。「SC」は都城市(69.2%)が3市の中で最も多く、前年比26.9P上昇した。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

(単位: %)

買物先 居住地	通販・ ネット販売	S C (大型店)	ディスカウ ントストア	量販店	デパート
全 体	61.0	57.4	31.9	29.8	28.4
	49.1	52.7	23.2	30.4	33.9
宮崎市	57.3	57.3	29.3	37.8	31.7
	50.0	72.2	22.2	22.2	41.7
都城市	69.2	69.2	23.1	30.8	30.8
	57.7	42.3	23.1	26.9	30.8
延岡市	83.3	50.0	50.0	-	16.7
	35.7	50.0	14.3	28.6	21.4

回答者数 141 人

※上段: 2020 年 下段: 2019 年

(3) 買物予定地(複数回答)

「小林地区」を除く全ての地区において、買物予定地を地元とする回答が最も多く、「日南地区」は全員が地元と回答した(表3)。

県外は、「延岡地区」が28.6%(前年比▲4.7P)と最も多く、「都城地区」が26.7%(同+0.8P)と続いた。

宮崎市を予定地にする回答は「延岡地区」を除く地区で8割以上を占めた。

表3. 買物予定地(複数回答、居住地別)

(単位: %)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県 外
宮崎地区 (注4)	96.1	2.0	-	2.0	-	7.8
	93.3	-	-	-	-	6.7
都城地区 (注5)	80.0	93.3	-	-	-	26.7
	51.9	85.2	-	-	3.7	25.9
延岡地区 (注6)	35.7	-	64.3	-	-	28.6
	40.0	-	66.7	3.3	3.3	33.3
日南地区 (注7)	100.0	80.0	-	100.0	-	-
	100.0	-	-	33.3	-	-
小林地区 (注8)	80.0	60.0	-	-	60.0	20.0
	71.4	42.9	-	-	57.1	28.6

回答者数 141 人

※上段: 2020 年 下段: 2019 年

(注4) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

(注5) 都城市、北諸県郡

(注6) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

(注7) 日南市、串間市

(注8) 小林市、えびの市、西諸県郡

(4) 県外での買物予定地(複数回答)

県外での買物予定地は、「鹿児島市(47.1%)」「福岡市(23.5%)」「大分市(29.4%)」となった(表4)。前年比では、鹿児島市を除く各市で低下しており、コロナ禍における県外への移動に変化がみられた。

表4. 県外での買物予定地(複数回答)(単位: %)

年	鹿児島市	福岡市	大分市	熊本市	北九州市
2020年	47.1	23.5	29.4	17.6	-
2019年	22.7	40.9	36.4	36.4	-

回答者数 17 人

7. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間で県外主要5市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」の回答が最も多かった(表5)。

熊本市は「2~4回」の頻度で、前年を上回ったが、他の買物頻度は総じて前年を下回った。

表5. 県外での買物頻度(複数回答)(単位: %)

年	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1 回	13.0	2.2	8.8	9.0	13.8
	16.8	5.0	12.2	12.2	15.1
2~4 回	6.6	1.6	6.6	5.2	9.8
	10.5	2.7	7.8	4.6	11.3
5~9 回	1.4	-	1.0	0.8	1.4
	2.3	0.4	2.5	1.7	1.9
10回以上	0.8	0.2	0.4	0.6	1.4
	2.1	0.8	1.7	1.7	1.7

※上段: 2020 年 下段: 2019 年

(2) 交通手段

県外主要5市への交通手段では、全ての市で「乗用車」が最も多い(次頁表6)。

前年比では、福岡市、北九州市でB&Sが上昇し、「高速バス」は低下した。

表6. 県外主要5市への交通手段（複数回答）

(単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗用車	58.0	76.2	91.3	89.7	91.7
	60.8	76.1	94.5	91.5	89.2
高速バス	14.3	4.8	3.8	9.0	0.8
	21.1	8.7	2.4	6.6	2.5
J R	2.7	4.8	5.0	1.3	7.6
	3.0	8.7	2.4	1.9	7.6
飛行機	13.4	4.8	-	-	-
	11.4	4.3	-	-	-
B&S(※)	11.6	9.5	-	-	-
	2.4	2.2	-	-	-

※上段: 2020 年 下段: 2019 年

※「B & S みやざき」の略称。Bus & Shinkansen の頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

8. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況(回答)は、「被服・履物」を除く全品目で「高い」が「安い」を上回る結果となった(表7)。

品目別の物価状況DIでは、「食品(生鮮食品を除く)(+38.2)」が最も高く、前年比4.8P上昇した。

表7. 品目別物価状況 (単位: %, P)

品目\物価	高い	不変	安い	D1 (A)	前年 (B)	前年比 A-B
食品(生鮮食品を除く)	39.6	49.6	1.4	38.2	33.4	4.8
光熱水道費	32.8	55.0	4.0	28.8	35.7	▲ 6.9
通信費	27.0	64.0	3.4	23.6	40.4	▲16.8
嗜好品(酒等)	25.6	55.4	2.2	23.4	17.0	6.4
耐久消費財	29.0	60.6	7.0	22.0	33.9	▲11.9
日用品	30.8	52.6	10.6	20.2	34.6	▲14.4
教育費	22.8	50.2	3.6	19.2	23.4	▲ 4.2
保険料	22.0	70.4	3.2	18.8	34.1	▲15.3
医療費	24.8	61.8	6.4	18.4	42.8	▲24.4
交通費	21.0	63.0	9.4	11.6	33.9	▲22.3
家具・家事用品	13.4	68.2	6.4	7.0	45.6	▲38.6
住居費	8.2	84.2	1.6	6.6	32.8	▲26.2
娯楽・趣味	20.2	55.6	18.4	1.8	43.8	▲42.0
外食費	26.4	42.2	26.4	0.0	18.6	▲18.6
被服・履物	11.4	66.2	15.2	▲3.8	22.0	▲25.8

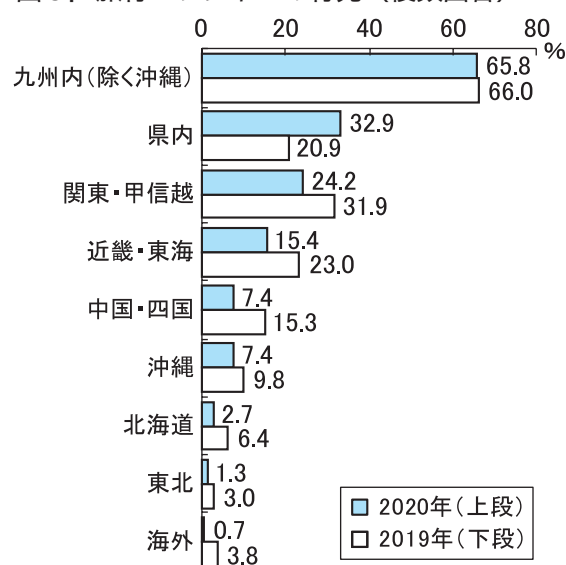
9. 今後の旅行・レジャー（複数回答）

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(65.8%)」が最も多く、「県内(32.9%)」

「関東・甲信越(24.2%)」となった(図9)。

「県内」は前年比12.0P上昇した一方、他の地域は総じて低下しており、コロナ禍で、県内を旅先の選択肢とする回答が増え、九州外の長距離旅行を控える傾向にある。

図9. 旅行・レジャーの行先（複数回答）



10. 新型コロナ禍の買物・旅行の状況

新型コロナによる買物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている(82.3%)」が最も多い(次頁図10)。

上位2項目で前回調査(2020年夏季)より衛生面の意識が向上したほか、「キャッシュレス決済を利用するようになった」が32.6P上昇した。

買物・旅行支援事業の利用状況は、「応援消費プレミアム付き商品券(プレミアム付き商品券)」が48.8%と最も多く、「宮崎県プレミアム付き食事券(プレミアム付き食事券)(37.2%)」「Go To トラベル(33.0%)」と続いた(次頁図11)。

図10. 新型コロナによる買物の変化

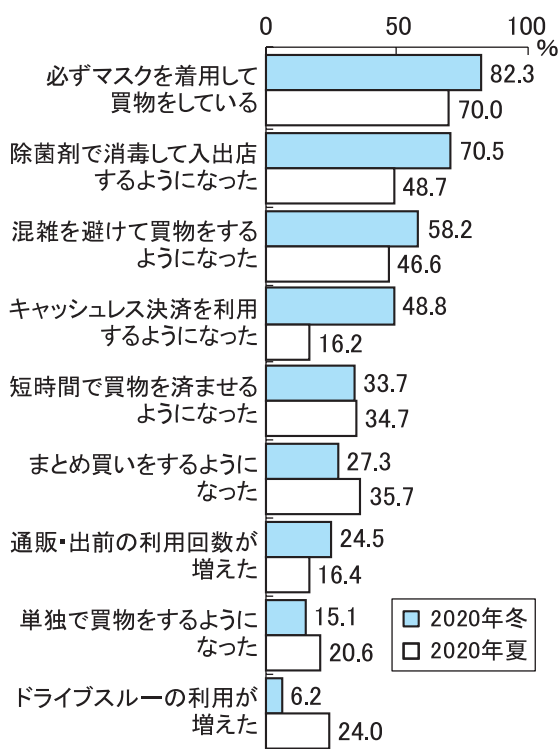
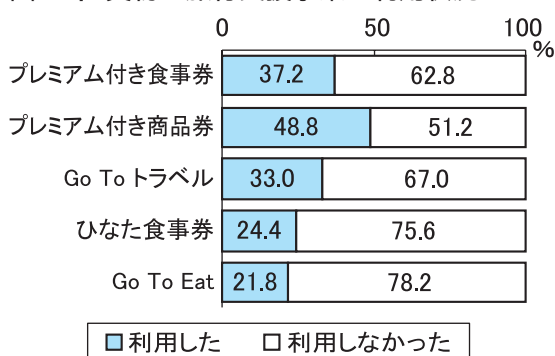


図11. 買物・旅行支援事業の利用状況



11. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が59.8%

全体では、前年より「変わらない」が59.8%と最も多く、「良くなった」は6.4%、「悪くなった」が33.8%で生活状況D Iは▲27.4となった(表8、図12)。個別の生活状況も、全ての項目で「良くなった」の割合が前年比低下し、「レジャー・余暇等」のD Iは▲50.4(前年比▲31.9 P)と大幅に悪化した。

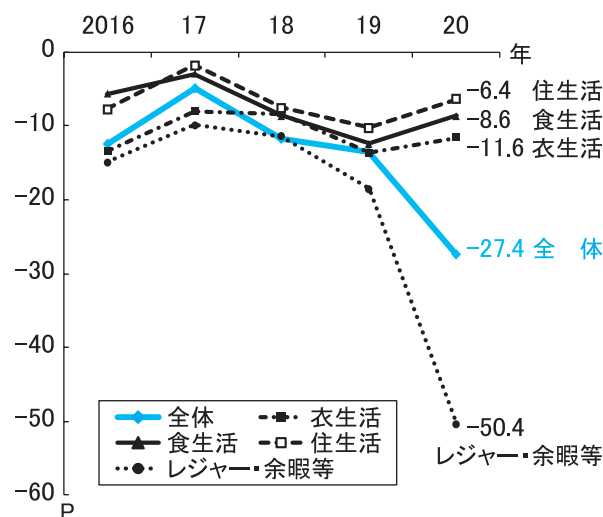
表8. 現在の生活状況

(単位: %, P)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	D I
全体	6.4	59.8	33.8	▲27.4
衣生活	3.2	82.0	14.8	▲11.6
食生活	8.6	74.2	17.2	▲8.6
住生活	5.2	83.2	11.6	▲6.4
レジャー・余暇等	4.8	40.0	55.2	▲50.4
	10.1	61.3	28.6	▲18.5

※上段: 2020年 下段: 2019年

図12. 生活状況D Iの推移



12. まとめ

今回の調査では、支給額の減少が見込まれる中、使いみちは「老後の生活」「家計の補充」を目的に貯蓄する回答が多かった。

買物では家電や日用品のまとめ買いが上昇し、新型コロナによる影響から衛生面を配慮する回答が増えた。旅行・レジャーは控える様子がみられた。生活状況D Iも全体のマイナス幅が大きく、ボーナスの使いみちは更に節約志向が強まることが予想される。(勝池)